

小児における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）について

大阪市立総合医療センター小児救急科 天羽清子

小児における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の現状と感染対策について解説します。本講座は2021年8月20日までのデータに基づいており、今後新しい知見が出てくる可能性にご留意ください。

疫学：厚生労働省の報告では、日本国内の新規感染者数は2021年7月から急増しており、それに伴い小児（20歳未満）の患者数も増加しています。全体における小児の占める割合も現在の第5波にかけて増加傾向にあります。この第5波は従来株より感染力の強い変異株、デルタ株に置き換わったことが患者数増加に寄与しています。また、日本小児科学会のレジストリ調査によると、第5波になっても小児の約70%は家族からの感染である事に変わりありませんが、幼稚園や保育所での感染は第1～4波までよりも第5波で増加しています。しかし、保育園においては子供同士よりも保育士さんなど周囲の成人から小児が感染している率が高いことは変わりません。小児の感染を防ぐため周囲の成人が感染しないことが重要です。

臨床症状：小児は成人よりも症状が乏しく、特に年少児は症状が出にくいです。また、現時点までに日本国内で小児の死亡報告はありません。しかし、2歳未満と複数の基礎疾患を持つ小児は重症化することがあり注意が必要です。

治療：成人で多くの治療薬が試みられ、病態に応じた有効な治療法も確立してきました。しかし、小児に使用できる薬剤はわずかしかありません。

予防：ユニバーサルマスク（症状の有無に関わらず全ての人がマスクする事）は有効ですが、呼吸の未熟な2歳未満には奨励されていません。有効なCOVID-19ワクチンは12歳以上しか使用できないため、子供に関わる大人がワクチン接種することが重要です。また、小児においては、COVID-19以外にも重症になる感染症が多くあり、定期の予防接種を遅れずに接種し予防する必要があります。

略歴

H6	徳島大学医学部卒業
H6～H8	大阪市立総合医療センター小児科臨床研修医
H8～H9	大阪府立母子保健総合医療センター レジデント
H9～H14	大阪大学医学部小児科 大学院・研究医
H14～H15	大阪府立公衆衛生研究所 ウイルス課
H16～H20	市立堺病院・市立池田病院・大阪厚生年金病院 小児科
H20～	大阪市立総合医療センター 小児救急科

所属学会

- 日本小児科学会
- 日本感染症学会
- 日本小児感染症学会
- 日本臨床ウイルス学会
- 日本ウイルス学会
- 日本ワクチン学会
- 日本渡航医学会
- 日本小児救急学会